

一 弘橋八幡宮

弘橋ハ石辻村^{無中}の内にありて小名なりハ幡
右郡及東夷征伐の時ハ西に陣をめぐれ
け神を勧請しありと云傳（り）上板家底内
を初^初一ありと云傳（り）に二^二上
家（渡り）弘神社（河判）を渡されたり
当社^一の社家（系）によつて河妻附なり
と云傳（り）今に八幡田神樂田神子免^一
いふ下^一名ありと云傳（り）弘橋とて社家
毎日のもの二人あり二月初午日多礼あり古

東ハ氏子弓矢を拵て奉仕せしと云今ハ
一^一三寸天餅といふを値進せりと云り又ハ
月朔日多礼ありて今氏群衆に予按さる
に朔日を祭日と一^一十又日は祭奠なりハ氏
子人衆を好む也（り）市桑村の八幡宮ハ弘橋
より及^一神をりしと云日あり翌日と云を
群衆をたよ弘橋よりハ朔日を祭日と一^一
りたりや弘橋の北ハ川を隔て大内田村
と云といふあり姓古 朝家より安人をたれ
たりと云て大内田と云ハ神一^一りたりや村後